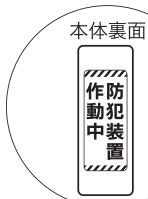


開放&衝撃検知窓アラーム

取扱説明書

このたびは本製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとも大切に保管し、必要なときにお読みください。

各部の名称



▲防犯プリントが
されています

本体



ブザー

スライドスイッチ

解除・・・切 警戒中・・・入

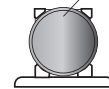
電池交換LED

電池交換が近付くと点滅してお知らせします。
この場合新しい電池と交換してください。

マグネット

■マークと □マーク
が合うように取り付
けてください。

リチウム電池
CR2032×1個必要
(別売)



電池ケース

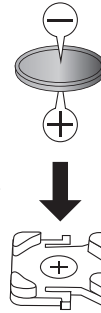
電池の入れ方

①本体下部の
電池ケースを
下方向に引き
出します。

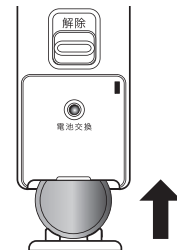


②リチウム電池の
極性⊕-を確
認して電池ケ
ースにセット
します。

注)下部が⊕です。



③電池ケースを
元に戻します。



取付方法

図1 ※室内側の窓に貼り付けます

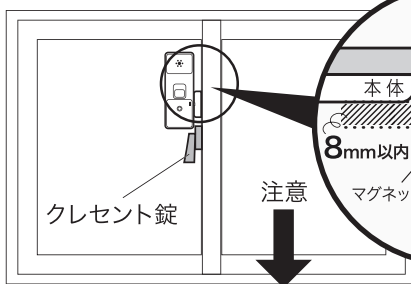
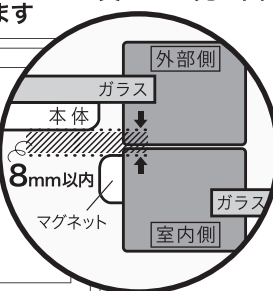
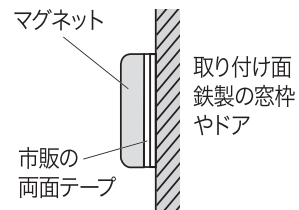


図2
真上から見た図



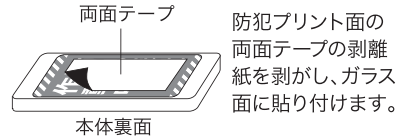
鉄製の窓枠やドアに取り付ける場合、マグネットの磁石が影響を受けて正常に動作しない場合があります。このような場合には、マグネットと取り付け面の間に3mm～5mmになるように両面テープを重ねて貼る事で改善されます。



引き違い窓の場合、本体を貼っていない方のガラス面についてはガラス破壊・衝撃の検知ができません。こちらのガラス面には衝撃検知タイプを取り付ける事をお勧めします。

取付方法

- ① [図1] のように窓ガラスのクレセント錠付近で取り付け位置を決めます。
 - ② 本体とマグネットの位置が8mm以下になるようにして、本体の■マークとマグネットの□マークが向き合うようにセロテープなどで仮止めし、窓の開放に支障がないことをご確認ください。
 - ③ 仮止めした後、正しく動作するか確認してください。
●動作確認方法(衝撃検知): 本体を**コイン等の金属**で軽く叩いてアラームが鳴るか確認してください。
(開放検知): マグネットを本体から離してアラームが鳴るか確認してください。
 - ④ 本体を取り付ける前に、設置面の水気や汚れを中性洗剤・アルコール等できれいに拭き取ってください。
 - ⑤ 防犯プリント面の両面テープの剥離紙を剥がし、窓ガラスへ取り付けます。
- 注) [図1] のような引き違い窓に取り付ける場合、本体を貼っているガラス面の破壊・衝撃しか検知できません。



ご使用方法

- ① スライドスイッチを上側(警戒中)に移動させると、警戒状態になります。
- ② 【衝撃を検知した場合】
窓ガラスへの衝撃やガラスの破壊を検知するとアラームが鳴り続けます。
・雨や風、大型車両の通行側による振動では動作しません。
【窓やドアが開いた場合】
マグネットと本体が約8mm以上離れるとアラームが鳴り出します。
- ③ アラームを途中で止める場合にはスライドスイッチを下側(解除)に移動させてください。
※開放センサー作動時はマグネットと本体が8mm以内に戻るとアラームが止まります。

⚠ 使用上のご注意

- 本製品は犯罪を未然に防ぐことを保証するものではありません。万一被害が発生しましても、弊社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 木材や金属など、ガラス以外の材質に取り付けると衝撃を検知できません。必ずガラスに貼り付けてご使用ください。
- 本品は非常に大きな音が発生します。聴力を傷つける原因となりますので、乳幼児の近くや耳元では絶対に鳴らさないでください。
- 本品は屋内専用です。防水仕様ではありませんので、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所には取り付けないでください。
- 凹凸が大きい装飾ガラスには一部取り付けできない場合があります。
- 変形や故障の原因となる為、下記の事にご注意ください。
 - 暖房機具の近くなど高温となる場所には使用しないでください。
 - 本品を分解・改造しないでください。
 - 油や煙のかかる場所では使用しないでください。
- 月に一度は動作確認を行うことをおすすめします。
- 本品を取り外す場合は、貼り付け面、製品本体を傷める場合がございます。また、取り外す際に生じた貼り付け面及び本体の損傷につきましては当社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。
- 一度ガラス面などに取り付けた本体を剥がすと粘着力は低下しております。再度取り付ける場合は落下などに十分注意してください。
- 電池は乳幼児の手の届かないところに置き、万一電池を飲み込んだ場合はすぐに医師に相談してください。
- 電池が発熱、液漏れ、破裂する恐れがある為、下記のことにご注意ください。
 - 電池の⊕⊖の方向を正しく入れてください。
 - 長期間ご使用にならない時は本体から電池を抜いてください。
 - 電池は充電しないでください。